

4月の安全運転のポイント 平成30年4月号

警察庁の発表によると、平成29年の交通事故による死者数は3,694人で、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最小となりました。そこで平成29年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。(資料は、警察庁「平成29年中の交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について」による)

平成29年の交通事故発生状況	発生件数*	472,165件 (前年比 - 27,036件 - 5.4%)
	死者数*	3,694人 (前年比 - 210人 - 5.4%)
	負傷者数	580,847人 (前年比 - 38,006人 - 6.1%)
*発生件数とは、人身事故件数をいい、物損事故は含まれません。		
*死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。		

年齢層別死者数では「65歳以上高齢者」が過半数を占める

年齢層別に死者数をみると、65歳以上の高齢者が2,020人で、全死者数に占める割合は54.7%と過半数を占めています(図1)。

また、65歳以上の高齢者の死者数を状態別にみると、歩行中が972人(48.1%)、自動車乗車中が579人(28.7%)、自転車乗用中が326人(16.1%)、二輪車乗車中が136人(6.7%)となっています(図2)。歩行中の死者972人を昼夜別でみると、昼間の318人に対して、夜間は654人であり、夜間は昼間の2倍以上となっています。歩行速度が遅く、黒っぽい服装の多い高齢者は目立たず発見が遅れがちですから、生活道路などでは、特に高齢者に注意して走行しましょう。

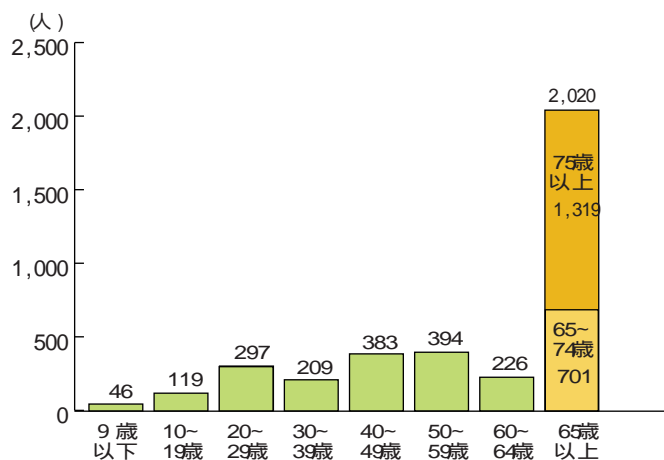


図1 年齢層別死者数 (平成29年)

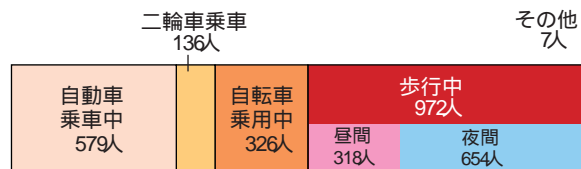


図2 65歳以上の状態別死者数 (平成29年)

事故類型別死亡事故件数では「横断中」が最も多い

死亡事故件数を事故類型別にみると、車両相互が1,374件(37.9%)、人対車両が1,279件(35.2%)、車両単独が927件(25.5%)となっています(図3)。

最も多いのは、人対車両の「横断中」の907件(25.0%)で、全体の4分の1を占めています。

車両相互をみると、最も多いのは「出会い頭衝突」の504件で全体の13.9%を占めています。「出会い頭衝突」の多くは、信号機のない見通しの悪い交差点で発生しています。そのような場所では、一時停止または徐行による安全確認を確実に実践していく必要があります。

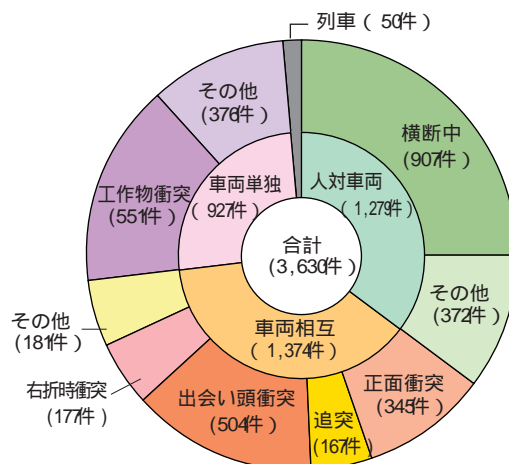


図3 事故類型別死亡事故件数 (平成29年)

交差点内と交差点付近が死亡事故の半数を占める

死亡事故件数を道路形状別にみると、交差点内が1,293件（35.6%）、交差点付近が374件（10.3%）を占め、交差点内と交差点付近を合わせると45.9%となります（図4）。

また、平成29年の人身事故統計をみると、交差点内と交差点付近は54.1%であり、半数を超えています（警察庁「平成29年中の交通事故の発生状況」による）。

交差点は最も事故の起こりやすい場所ですから、他車や自転車、歩行者の動きに十分注意して、慎重な運転を心がけましょう。

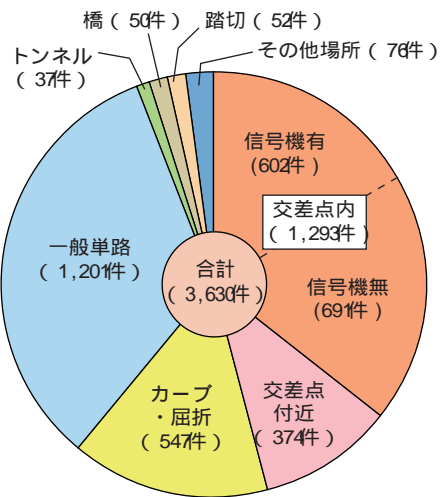


図4 道路形状別死亡事故件数（平成29年）

法令違反別死亡事故件数では漫然運転が最も多い

原付以上の運転者が第1当事者となった死亡事故件数を法令違反別にみると、「漫然運転」が545件（16.8%）で最も多く、次いで「運転操作不適」429件（13.2%）、「脇見運転」393件（12.1%）となっています（図5）。

疲労や風邪などにより体調が悪いにもかかわらず運転したり、気にかかることなどがあって考え事をしながら運転すると、漫然運転に陥りやすくなります。体調不良のときは運転を控える、気にかかっても、ハンドルを握ったら運転に集中することを心がけましょう。

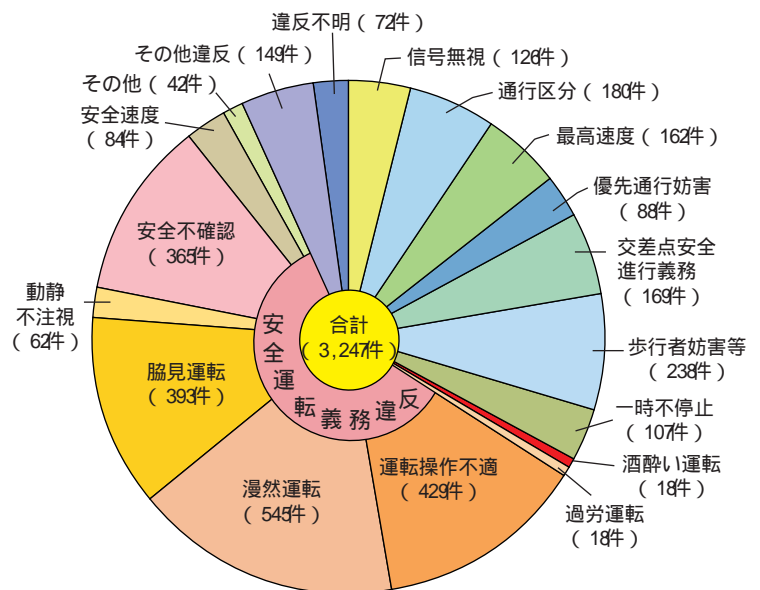


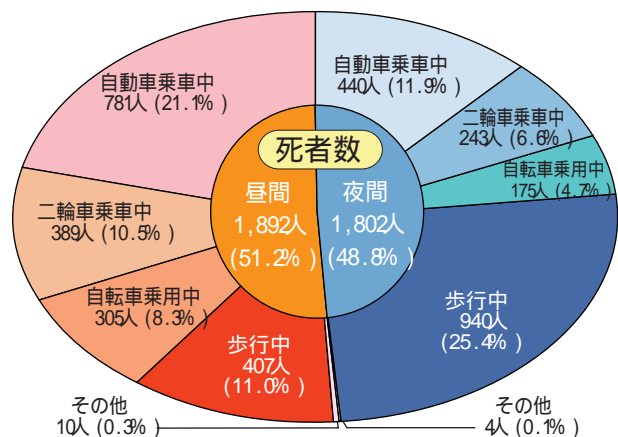
図5 原付以上運転者（第1当事者）の法令違反別死亡事故件数（平成29年）

昼夜別の状態別死者数では夜間の歩行中の死者数が最も多い

昼夜別の死者数は、昼間が1,892人（51.2%）、夜間は1,802人（48.8%）で夜間より昼間のほうが多くなっています（図6）。

状態別で見ると、昼間は自動車乗車中が多いのに対して、夜間は歩行中が多く、全死者数の4分の1を占めています。

夜間に走行するときは、ヘッドライトのこまめな切り替えによって、できるだけ上向きヘッドライトを活用し、歩行者を早めに発見するよう努めましょう。



「昼間」とは日の出から日没まで、「夜間」とは日没から日の出までをいいます。

図6 昼夜別の状態別死者数（平成29年）

「ご相談・お申込先」